

# 第27期第1回

## 札幌市スポーツ推進審議会

### 会 議 録

(概要版)

日 時：平成30年7月20日（金）午後3時開会  
場 所：敷島北一条ビル 7階 会議室

## 1. 開 会

- 1.1 開会挨拶
- 1.2 スポーツ局長挨拶
- 1.3 委員及び事務局紹介
- 1.4 配布資料確認、スポーツ局概要説明

## 2. 会長及び副会長の選出

○事務局（金谷企画事業課長）

続いて、第27期における会長と副会長の選出でございますが、札幌市スポーツ推進審議会条例施行規則第2条第2項の規定によりまして、会長及び副会長は、委員の互選によって定めることとなっております

自薦、他薦は問いませんので、何かご意見がございましたら、ご発言をよろしくお願ひしたいと思います。

○長澤委員

事務局に一任します。

○事務局（金谷企画事業課長）

それでは、事務局に一任というお声をいただきましたが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（金谷企画事業課長）

それでは、事務局といたしましては、会長につきましては、昨年行われました指定管理者の選定業務におきまして委員長のご経験もございました石澤委員にお願いしたいと思ひます。

また、副会長には、今期、委員3期目となります佐藤委員にお願いしたいと考えてございます。

皆様、いかがでございましょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（金谷企画事業課長）

ありがとうございます。

それでは、第27期札幌市スポーツ推進審議会の会長は石澤伸弘委員に、副会長は佐藤美紀子委員に決定させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

石澤委員、佐藤委員につきましては、正面の席に移動をお願いしたいと思います。

〔会長、副会長は所定の席に着く〕

○事務局（金谷企画事業課長）

それではまず、石澤会長より、一言、ご挨拶を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお祈りいたします。

○石澤会長

お世話になります。

このたび、会長に就任しました石澤と申します。

いろいろとご意見をいただきながら、いいお話ができればと思っております。よろしくお祈りいたします。

○事務局（金谷企画事業課長）

ありがとうございました。

続きまして、佐藤副会長からも、一言、ご挨拶を頂戴したいと思います。お祈りいたします。

○佐藤副会長

3期となっておりますけれども、今期で初めてここに来るといふ本当に初心者ですので、皆さん、どうぞよろしくお祈りいたします。

○事務局（金谷企画事業課長）

ありがとうございました。

続きまして、議題に入らせていただきますが、ここからの議事進行につきましては、石澤会長にお願いしたいと思います。

会長、よろしくお祈りいたします。

### 3. 議 題

○石澤会長

それでは、皆さん、よろしくお祈りいたします。

まず、議題に入る前に、1点、マイクの使用についてのお願いがあります。

当審議会は、後日公開による議事録作成のために録音を行っておりますので、マイクを使ってご発言いただきますよう、よろしくお祈りしたいと思います。

それでは、早速ですが、本日の議題について、お話を始めていきたいと思っております。

まず、お手元の次第にありますとおり、議題としまして、事務局から札幌市スポーツ推進計画の中間見直しについてが提示されております。

初めに、事務局より、これに関するご説明をお願いしたいと思います。よろしくお祈りいたします。

○事務局（砂村企画担当課長）

改めまして、スポーツ局スポーツ部企画担当課長の砂村でございます。どうぞよろしく  
お願いいたします。

私から、審議会に付議をさせていただく案件についてご説明いたします。

札幌市では、平成26年2月に札幌市スポーツ推進計画を策定いたしました。このスポーツ  
推進計画の計画期間につきましては、平成25年度から平成34年度までの10年間  
でございます。計画では、中間年には必要に応じて計画内容の見直しをすることとされ  
ております。

計画策定からおよそ4年半が経過しておりまして、その間、国では、スポーツ庁が発足、  
また、平成29年3月には、第2期スポーツ基本計画が策定されておりまして、札幌市に  
おきましても、この間に冬季オリンピック・パラリンピック招致を表明するなど、スポー  
ツ環境にも大きな変化が見られております。

このような背景を踏まえまして、昨年度から計画内容の見直しに着手してございます。

今回の見直しでは、これまでの取り組み状況や、国が策定をいたしました第2期スポー  
ツ基本計画で力を入れていく分野などから、事務局案を一旦ご提示した上で、審議会での  
議論を深めていただき、その改定版を策定したいと考えてございまして、このたび、札幌  
市スポーツ推進計画の見直しについて付議をさせていただくものでございます。

それでは、お手元にお配りいたしましたA3判横のカラー刷りの資料3をごらんいただ  
ければと思います。

表題は、札幌市スポーツ推進計画の中間見直しについてです。

中間見直しにつきましては、資料の一番左の現行の施策体系、それから、その右の見直  
しに当たり考慮する点、そして、資料の右半分の今後の方向性（案）に分けてご説明をさ  
せていただきます。

まず、現行の施策体系についてでございますが、現在のスポーツ推進計画では、基本理  
念といたしまして、スポーツ元気都市さっぽろを掲げ、三つの目標、六つの方針を定めると  
ともに、目標ごとに成果指標を設定してございます。

次に、資料の中央にございます見直しに当たり考慮する点について、大きく3点のご説  
明をいたします。

まず、1点目の見直しの背景についてご説明いたします。

次のページのA3判カラーの別紙1をごらんいただきたいと思っております。

表題は、札幌市スポーツ推進計画見直しの背景となっております。

札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化といたしまして、左側の（2）にございます札幌  
オリンピック・パラリンピック冬季大会の招致を平成26年11月に表明したことが挙げ  
られます。今後は、札幌オリンピック・パラリンピック冬季大会の招致を、札幌市がウイ  
ンタースポーツを牽引する国際都市として、さらなる飛躍をするための機会と捉えまして、  
ウィンタースポーツの振興、招致機運の醸成に向けた取り組みを推進する必要がございま

す。

次に、その下の（３）でございますが、国際的スポーツイベントの開催についてです。

札幌市では、札幌ドームの開設以降、冬季アジア大会などの国際的なスポーツイベントを開催してまいりました。計画の後期に向けましても、市民にトップレベルの観戦機会をご提供することで、スポーツへの関心を高めるとともに、イベント開催を契機といたしまして、観光客の誘致やシティプロモートの促進を図る必要がございます。

また、平成２８年３月には、（４）でございますさっぽろグローバルスポーツコミッションを設立いたしました。この組織は、北海道、札幌のスポーツ資源を活用いたしまして、スポーツイベントや海外代表チーム合宿等の誘致を行う専門組織でございます。引き続き、北海道、札幌の魅力を発信するとともに、計画の後期に向けましては、観光閑散期である冬季の集客を目指すスポーツツーリズムの取り組み強化を図ってまいりたいと考えております。

さらに、平成２８年４月には、右上の（５）のとおり、これまで観光文化局のスポーツ部でございました組織をスポーツ局として新たに再編しております。

次に、大きな２番の国の動向といたしましては、平成２７年１０月にスポーツ庁が発足いたしまして、平成２９年３月には、第２期スポーツ基本計画が公表されております。ここでは、平成２９年度から平成３３年度までの５年間を計画期間といたしまして、新たな基本方針などが示されているところです。

最後に、大きな３番は、社会環境の変化といたしまして、人口減少や超高齢社会の到来がございまして、今後は、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方の実現のためにも、スポーツが担う役割が大きくなってきているところでございます。

次に、見直しに当たり考慮する点の２点目の計画前期の取り組み状況についてご説明いたしますので、Ａ３判の別紙の２枚目、スポーツ推進計画における成果指標の状況をごらんください。

現行計画におきましては、スポーツ実施率、ウインタースポーツ実施率、各区のスポーツイベント参加者数、計画期間中に新たに開催する大規模大会の開催数という四つの成果指標と目標値を定めてございます。

まず、スポーツ実施率についてですが、ちょっと小さくなっていて見づらい部分がありますが、図表１のグラフ上の赤い波線の目標値６５％に対しまして、現状値が５６．４％と計画策定当初よりも上昇しておりますものの、いまだ目標値には達していない状況です。

また、図表２のとおり、スポーツ実施率を年代別に分析いたしますと、２０歳代から４０歳代までの実施率がほかの年代と比べて低いということがごらんいただけると思います。一方で、６０歳代以上のスポーツ実施率が高くなってございます。

続きまして、図表３の種目別スポーツ実施率では、ウォーキング、散歩といった軽い運動、あるいは、体操、サイクリングなどの１人でも気軽にできる種目の回答が多くなっております。

④のスポーツ実施の阻害要因につきましては、平成29年度市民意識調査の結果から、30歳代から40歳代の50%以上の方が、仕事や家事が忙しいと回答しているところでございます。

さらに、同じく平成29年度市民意識調査の結果から、ここではニーズがあるというようなことになっておりますが、今後行いたいスポーツは、全年代におきまして、ウォーキング、散歩が最も高い結果になってございます。

これらから考えられる課題といたしまして、種目では、ウォーキング、散歩が最も行われている一方で、札幌市の特色でもございます積雪期間においては、このような屋外で行う軽い運動の機会が制限されますこと、また、20歳代から40歳代に代表されますビジネスパーソンや子育て世代に対するスポーツ実施率を向上させる取り組みが必要であること、全ての年代で人気が高いウォーキング、散歩に代表されます気軽にできるスポーツに親しめるような環境整備が必要であることなどが考えられます。

次に、2番目のウインタースポーツ実施率についてです。

図表5の真ん中あたりの太目の赤い折れ線グラフでお示ししておりますとおり、目標値の25%に対して、現状値は、一番右の10.4%となっております、おおむね横ばいの推移となっております。

同じく、図表5に示しました年代別のウインタースポーツ実施率では、実線のものですが、20歳代から40歳代までが高く、40歳代が24%と最も高い一方で、点線の折れ線グラフのとおり、50歳以上になりますと実施率は急激に低くなるという傾向が見てとれます。

右の上のほうに行ってください、④ウインタースポーツ実施の阻害要因のほうでは、各年代で経済的な理由を回答している人が多く、60歳代、70歳代では、病気、体力、年齢を回答している人が多くなっております。

また、⑤の今後行いたいウインタースポーツにつきましては、各年代で満遍なくカーリングという回答がございまして。

これらから考えられる課題といたしまして、60歳代以上は、病気、体力、年齢を阻害要因に挙げている方が多く、ウインタースポーツの競技性から、高齢者に対してウインタースポーツの実施を強く推奨するということは、健康づくりに必ずしも直結するものではない可能性があること、ウインタースポーツ特有の阻害要因として、経済的な要因というものがあること、また、今後の高齢化の進行を考えますと、ウインタースポーツ実施率の低い高齢者の割合が増加しますことで、結果として、全体のウインタースポーツ実施率が低下する可能性があることが考えられるところでございます。

次に、3番目の各区で実施するスポーツイベント参加者数についてですが、図表8のとおり、平成28年度に目標値を達成してございます。これは、冬季アジア札幌大会の開催に伴いまして、各区で実施した区民応援ツアー、おもてなし事業の参加者数を加味したものでございます。

課題といたしまして、地域におけるスポーツ活動の活性化を考えますと、地域単位の自主的なイベントも含める必要が実際にございますけれども、そういったイベントの性格の問題から、把握自体がなかなか困難であるということが考えられております。

最後に、計画期間中に新たに開催します大規模スポーツ大会の開催数につきましては、平成34年度までに10大会の開催を目標値としております。

図表9のとおり、平成29年度終了時点で8大会を開催してございまして、今年度で開催される日本スポーツマスターズ2018札幌大会や、第74回国民体育大会冬季大会スキー競技会、あるいは、来年度に開催される予定となっておりますラグビーワールドカップなどを考えていきますと、この目標は達成される見通しでございます。

今後の課題としましては、イベントそのものを開催することだけではなく、イベントを通じた観光振興、あるいは、交流人口拡大といった経済、地域の活性化がより重要になってくると考えられております。

次に、見直しに当たって考慮する点の3点目の第2期スポーツ基本計画についてご説明いたしますので、A4判の別紙3をごらんください。

第2期スポーツ基本計画の概念図になってございます。

まず、基本方針としまして、真ん中の少し上あたりに赤い太字で書いてございしますが、「～スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life～」を掲げまして、四つの方針と四つの施策を打ち出しております。

このうち、①の「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、②のスポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現については、自治体に取り組むべきこととしても記載されておりますため、今回の見直しに当たって、札幌市としても取り入れていきたいと考えております。

また、先ほどのカラーの大きな紙の資料3に戻っていただいて、第2期スポーツ基本計画の中では、資料の中央の下側にございますオレンジ色の枠内のトピックスが新たに記載されてございまして、ビジネスパーソンへの働きかけや、障がい者スポーツの振興などについて、見直しに当たって、その趣旨を取り入れていきたいと考えてございます。

なお、これまで、札幌市スポーツ推進計画に基づきましてさまざまな事業を展開しておりますが、お配りいたしました6枚物の参考資料1の札幌市スポーツ推進計画掲載事業の取り組み状況一覧にまとめさせていただいております。

こちらの資料は、量が多いため、説明については割愛させていただきますが、現時点では、おおむね計画にのっとりた事業を実施しているというふうに考えてございます。

資料3の左半分の現行計画の施策体系、見直しに当たり考慮する点の説明については、以上になります。

なお、ただいまご説明させていただきました部分については、今後、スポーツ推進計画の改訂版の前半部分の中で骨組みとして作り込んでいきたいと考えている表記になってございます。

説明が長くなりましたけれども、私からは以上でございます。  
よろしく願いいたします。

○石澤会長

ありがとうございました。

そうしましたら、事務局から示されました見直しの背景やこれまでの取り組み状況について、委員の皆様方から、ご意見、ご質問等がありましたらお受けしたいと思います。

かなり詳細にお話しいただきましたけれども、これから議論をする上で重要なポイントになるかと思われますので、何かご不明な点などがありましたら、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○石澤会長

私から1点よろしいでしょうか。

別紙2の左側の図表4ですが、男女別スポーツ実施率ということで、平成29年度の数値がかなり上がっている状況が見受けられると思います。それ以外の年は、大体30歳代から40歳代後半ぐらいだったのですが、平成29年度に関しましては、50%後半という形になっているのですが、上がった理由はどのように捉えていらっしゃいますか。

○事務局（砂村企画担当課長）

お答えいたします。

図表4の男女別スポーツ実施率ですが、同じことが図表1の全体のスポーツ実施率の推移とも重なってまいりますので、あわせてご説明いたします。

おっしゃったように、平成29年度については、56.4%というのが成人全員の割合、男性につきましては57.8%、女性につきましては56.3%という割合が出ております。前年度が30%台でございまして、数字が20ポイント近く違うということになっております。

スポーツ実施率についてですが、その捉え方は、札幌市においては毎年2月に行っております指標達成度調査というもので、スポーツを実施していらっしゃるかどうかをお聞きしてございます。その中身は、成人の方に、週1回以上スポーツをされていますかという聞き方をしておりますが、新しい第2期スポーツ基本計画においては、健康づくりなどのために身体活動を行う部分については、すべからくみんなスポーツと捉えるということがより鮮明に打ち出されております。

今までですと、札幌市としても、スポーツをされていますかという聞き方をしていたのですが、どうしても競技性を意識されてしまうと思うのですが、スポーツといえば、サッカー、野球といったルールを持った競技を行っているということ意識されて、私はそこまでは



していないなということで、していないと回答された方もいらっしゃったと思うのですが、今年度の調査では、そこをよりわかりやすく設問でさせていただいております。

今申し上げたように、健康づくりのために身体活動を行っているような方については、これもスポーツですと、ついでに、週にどれぐらいスポーツをしていらっしゃいますかというような聞き方になっておりまして、この数字が出てきております。

今までは、実は、地方公共団体ごとに聞き方がばらばらでしたけれども、国の聞き方にある程度合わせにいった結果として、このような数字が出てきているところでございます。

○石澤会長

ありがとうございました。理解できました。

それ以外のところで、委員の皆様方から何かありませんか。

○堀田委員

年代別とか、いろいろなグラフで細かく出ているのがすごくおもしろいと思いました。

図表2の年代別では、60歳代、70歳代がスポーツと言われるものに非常に多く取り組んでいらっしゃるようには見えるのですが、図表3のトレーニングやランニングとなりますと、60歳代、70歳代は、どのスポーツを一番多くされているというのがわかると、将来、高齢化社会になりますと、それが反映してくるかと思いましたので、お聞かせください。

○事務局（寺島企画担当係長）

ありがとうございます。

こちらに資料はありませんが、高齢者の方が行っているスポーツとしましては、種目別で上位にありますウォーキング、散歩、体操、トレーニングといった、1人でもできる運動、また気軽にできる運動というものが高くなっております。

○事務局（砂村企画担当課長）

今の図表について追加して申し上げさせていただきます。

破線のものは、ほかのものとは比べて割合が大きく違います。ウォーキング、散歩につきましては、50%を超える数になっておりまして、右側に軸がございまして、それ以外のものは25%以下ということで、ウォーキング、散歩といった、その辺でできると言っただけですが、そういったものが断トツに多いということが見てとれるのと同時に、60歳代、70歳代の方もお一人で取り組むことの可能なものが比較的多いというのは、同じ傾向でございまして。

○堀田委員

ありがとうございます。

○事務局（寺島企画担当係長）

少し補足しますが、例えば、60代で言うと、60代前半でウォーキングをされている方が60.9%、65歳から69歳に関しては63.4%、70歳以上についても56.3%と、その年代では最も高い競技となっております。

○石澤会長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

○岩崎委員

今回の僕の質問は、もしかしたら論点からずれてしまうのかもしれないのですが、あくまでも成人の方を対象にこういった調査を行っていると思いますが、子どもたちのスポーツの実施率はこの何年かで上がっているのか、参考までに教えてもらいたいと思います。

○事務局（寺島企画担当係長）

今いただいた質問につきましては、子どもについては、札幌市では、教育委員会で、一部の生徒に対して、ウィンタースポーツに関しては行ったことがありますが、それ以外では把握しておりません。この指標達成度調査の中では、18歳から19歳という数字は別にあります。そういった状況になっております。

○石澤会長

教育大学で仕事をしていますので、1点、参考ですが、文科省が全国の小学生、中学生に対して調査をしたのですが、今の日本においては、1週間で体を1時間以上動かさない子どもが10%以上いるというものが一つの指標としてあると思います。

また、特に中学生あたりは、部活をすることによって、運動がかなり伸びますので、1週間7時間以上の者もかなりいるということで、二極化がよく言われております。

全く運動をしない子も10%いるのですが、それ以外は、やっている時間が長い生徒がやはり少なからずおり、それが部活問題にも関係してくるのかなというところですが、二極化が叫ばれている状態のようです。

○長澤委員

ちょっとお聞きしたいのは、「する」「みる」「ささえる」ではないですが、スポーツのいろいろなところに触れていまして、手軽にできるウォーキングや何かというのは、年

代問わず広がっていくというのはよくわかるのですけれども、施設の問題というのはここで挙がってこないのですか。

要するに、障がい者スポーツに関しては、例えば、スキーにしても何にしてもそうですけれども、身近なところで接する、プレーできる施設が整っていないと、思うように普及していかないのではないかと考えます。

ですから、スポーツの視点で捉えるところが一つと、施設から見たスポーツといいますか、その人口や普及度合い、あるいは、このスポーツ推進の中で考えていくのかどうかというところをお聞きしたいと思います。

#### ○事務局（砂村企画担当課長）

施設の整備がスポーツをすることができる環境につながるという話につきましては、実は、もともとのスポーツ推進計画の中で、どういう施設がスポーツ環境に適切かを考えなければいけない、それから、配置活用計画という計画をつくらなければならないということをお聞きしております。

ですから、まさにこれと並行ということになるのですが、例えば、施設ですので、建物とか、そういった専門家も含めた会議を持たせていただいて、別に計画を一つつくる予定でおります。ただ、今回の計画の中でおっしゃっていただいた趣旨につきましては、そこが重要であるといったご意見は、ここで閣達にご議論をいただきながら、どういうふうに変現していくかはもちろんご相談ですが、まさにご議論いただく中でお気づきの点をおっしゃっていただければと考えております。

#### ○長澤委員

ありがとうございます。

#### ○浅香委員

アンケートの中で、ウィンタースポーツの競技種目に関する回答の中でどういうものがあつたのか、お聞きしたいと思います。

この中では、スキーとかスケートとかカーリングは満遍なくやりたいという回答があるということですが、例えば、もっと庶民的な長靴ホッケーや雪合戦などが回答の中にあつたのか、お聞きしたいと思います。

#### ○事務局（寺島企画担当係長）

アンケートのウィンタースポーツの種目に関しましては、別紙2に記載されていますが、スキー、スノーボード、スケート、カーリング、その他という聞き方をしておりまして、その他の中に、少数意見ではありますが、雪合戦とかスノーシューという回答がございます。

○浅香委員

長靴ホッケーはなかったですか。

○事務局（寺島企画担当係長）

スノーホッケーはありました。

○石澤会長

実施率の推移を見ていくと、カーリングより、その他のほうが数値的には高いということでもよろしいですね。平成26年度以外は、赤紫色の線のほうがカーリングを上回っている状況になると思いますので、ニーズがある、やっている方がある程度いらっしゃるという解釈でよろしいですね。

○事務局（寺島企画担当係長）

はい。

○石澤会長

わかりました。ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○石澤会長

そうしましたら、幾つかご意見をいただきましたけれども、スポーツ推進計画の改定版の前半部分につきましては、次回の審議会で素案という形で事務局からご提示いただくのがいいと考えておりますけれども、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○石澤会長

異議なしという声が多いので、そのようをお願いしたいと思います。

続きまして、今後の方向性につきまして、資料3のベージュ色の右半分になってくるわけですが、事務局から説明をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○事務局（砂村企画担当課長）

資料3の右側でございます今後の方向性（案）について説明をさせていただきます。

計画の施策体系につきましては、今回の見直しにおきましても、基本的には従来と同じように目標を置きまして、その下に方針、そして施策がひもづいていくような形にしたいと考えております。

委員の皆様方には、先ほどご説明させていただきました左側の右半分の見直しに当たっ

て考慮する点などを参考にいただきまして、今後の目指す方向性についてご意見をいただきたいと考えております。

なお、ちょっと小さいですけれども、点線で囲った角丸の四角、ページの中でも下半分の中に書いてございます、スポーツ参画人口の拡大、スポーツを通じた共生社会の実現、スポーツを通じた経済・地域の活性化、冬季オリンピック・パラリンピック招致につきましては、これまでに説明した内容を踏まえまして、事務局において、あくまで考えられるキーワードとして置かせていただいたものでございます。

以上、今後の方向性（案）についてのご説明を終わります。

○石澤会長

ありがとうございました。

そうしましたら、今いただいた説明を受けまして、この後、委員の皆様方からご意見を伺いたいと思います。

今回見直そうとしている施策体系のうち、根幹となる目標や方針につきましては、皆様方のご意見をまとめることで、まず、その骨格を導き出していきたいと考えております。

事務局から説明がありましたとおり、これまでの札幌市の取り組み状況や、国の第2期スポーツ基本計画の内容を参考にしながら、スポーツの価値や役割、あるいは、スポーツによって得られる効果などをイメージしながら、今後の札幌市が目指す方向性について自由にご発言をいただきたいと思います。

そのような流れで話を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○石澤会長

ありがとうございます。

そうしましたら、事務局には、委員の方のご発言のキーワードとなる部分を書き出いただき、左側にホワイトボードがありますので、そちらに掲出していただきたいと思います。

これから我々が考えます目標や方針をつくる上で、そのキーワードをベースにしていきたいと考えておりますので、委員の皆様のそれぞれの専門分野を踏まえまして、ご意見をいただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

いかがでしょうか。

資料3の左端を踏まえまして、真ん中の見直しに当たり考慮する点を考慮して、ページのところを新たに見直していくという作業になっていくのですけれども、現行は、3目標、6方針という形で展開しております。それを踏まえまして、見直しの背景で示されました内容、計画前期の取り組み状況、また、国が示しました第2期スポーツ基本計画につきましては、先ほどお示しいただきましたA4判の別紙3の内容が国から示されているということです。当然、国が示す内容を網羅するところも求められているという気もします

が、そういったことも踏まえまして、取り組んでいきたいキーワードをぜひいただいております。

お考えいただいた上で、積極的にご意見をいただきたいと思っております。

これまで出てきているキーワードとしましては、資料3の一番左側にありますけれども、例えば、目標1の「スポーツを通じて市民、誰もが元気になる」という赤字の「市民」とか、目標2の「スポーツを通じて地域が元気になる」というこの「地域」もキーワードになると思っております。目標3の「スポーツを通じて『さっぽろ』が元気になる」で「札幌」というキーワードが出てきていると思っております。そういった状況の中で、見直しをする上で、ぜひ取り上げていきたいキーワードがありましたら、いただきたいと思っております。

#### ○岩崎委員

プロのサッカークラブという視点からになってしまうかもしれませんが、今、Jリーグ百年構想というものがございまして、各Jリーグクラブは、Jリーグ百年構想をもとにクラブとして活動をしている点があります。

Jリーグ百年構想の中では、「する」「みる」「ささえる」をキーワードにして、Jリーグクラブだからといって、サッカーばかりではなくて、クラブ自体がほかのいろいろなスポーツに取り組んで、スポーツのファミリーを増やしていこうという理念のもとに、今、クラブとして必死に運営しています。

質問とずれてしまったのですが、成人の方のスポーツの現場を見直すことも必要だと思っておりますが、これからの子どもたちがスポーツに取り組んでいく状況をつくってあげることによって、今後、5年後、10年後、20年後も見ながら、このスポーツ推進計画を立てていったほうがいいと思っております。

現状をスポーツに取り組む環境にしていくという考え方も大事だと思うのですが、これからの札幌市のスポーツ文化がどうなっていくかという視点も含みながら考えていったほうがいいと思っております。

#### ○石澤会長

ありがとうございます。

まさに、先ほども話がありましたけれども、少子化とか高齢化とか人口減社会といった切迫した問題が迫っておりますので、そういった見方は大事だと思います。

岩崎委員、今おっしゃった内容でいきますと、どういうキーワードになりますか。

#### ○岩崎委員

第2期スポーツ基本計画の①のところですね。

#### ○石澤会長

なるほど。「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大ということですね。わかりました。

ほかの委員の方々からは、いかかでしょうか。

○小野寺委員

今、岩崎委員から出されました子どものスポーツということで、きょう私が持ってきた資料をご紹介しますと思います。

5年前の平成25年度の中学校の部活動の数ですが、99校の部活動の数は、全部で697部でございました。参加生徒数は、男女を合わせて2万3,262人です。それから、ことしの平成30年度ですと、部活動の数が664部、5年間で30部ほど減っているということです。それから、参加生徒数は、2万1,998人ということで、中体連調べでは1,300人ほど減少しているということになっています。

その間の全体の生徒数の減少について、これは市教委調べになるのですが、平成25年度には、4万5,149人の中学生がおりましたのが、平成30年度は、4万2,959人ということで、2,000人ちょっと減っているという感じです。

数字だけですが、ご紹介させていただきました。

○石澤会長

やはり、子どもの数の減少がそのまま部活の数に直結しているということですね。

○小野寺委員

そうですね。

○川口委員

その原因は、子どもたちがクラブに入らないということですか。それとも、部を担当する先生がいないということですか。

○小野寺委員

生徒数も減ってきていますので、学校全体の規模が小さくなり、そうすると、教員の配置が少なくなるということもございます。今まであった部活を持っていた先生がどんどんいなくなってしまうので、潰すしかないというのが正直なところですね。

○川口委員

わかりました。ありがとうございます。

○浅香委員

私からは、障がい者スポーツのこれからということでお話をさせていただきたいと思います。

スポーツ庁がつくられた中間の計画は、私は障がい者関係のところを読ませていただいたのですが、厚労省がつくったような文章なのかと大分皮肉って読んでいました。が、私は、障がい者がスポーツに入り込むきっかけづくりが特に必要だと常々考えていて、そのためにどうするべきなのか。

先ほど長澤委員におっしゃっていただいた、施設の面、人の面も含んで、これから大切な時期に入ってくるのではないだろうかと思います。

例えば、政令指定都市の中でも、半分ぐらいは障がい者に特化した体育施設があるのですけれども、多いところだと、年間30万人ぐらいがその体育施設を利用して、楽しんでいる、また、アスリートを目指している者がいろいろおりますけれども、札幌の場合は、障がい者に特化した体育施設が1個ありますが、利用度というところ、せいぜい1万3,000人ぐらいなのです。そこには指導する者もいませんし、相談に乗ってくれる者もおりません。

ある大きな都市にある障がい者に特化した体育施設では、指導員もいるし、相談にも乗ってくれます。体育施設、スポーツセンターに行ったのだけれども、最初は自分が何をしたいのかわからないまま行くというのが実際は現実です。私の経験や実際に聞かされた話では、七、八割はそういうふうに思っていますので、方向性を変えながらやらないと、障がい者がさまざまなスポーツに取っかかるきっかけ、接点がなかなかつかめないのかなと感じていました。きっかけとプラスアルファ、動機づけが必要なのかなと感じています。

#### ○石澤会長

ありがとうございます。

きっかけと動機づけということですね。これは、健常者のスポーツにも共通する事項かと思えますけれども、大事なことですね。

ほかにいかがでしょうか。

#### ○堀田委員

高齢化ということで、私の身近な方が、認知症だったり、健康が損なわれていく場面を見ることがかなり多くなりまして、意識するようになりました。

これからは、歩くにしても、マラソンにしても、体を動かすことが少しでも健康を損なわないポイントになると思いますので、健康を目指す、精神的な健康を目指すようなスポーツの仕方が目標に持てるといいなと思っています。

#### ○石澤会長

「健康」という大きなキーワードということですね。



○堀田委員

はい。

○石澤会長

ありがとうございます。

ほかにいかかでしょうか。

○西村委員

医師会では、健康スポーツドクターとか、そういう取り組みをやっているのですが、そちらのほうの話かなと思ったのですが、そういうわけでもなさそうなので、ちょっと安心しました。僕たちは、スポーツをしなさいと言われても、むしろ働き方改革を何とかしてくれないと、とてもではないけれども、スポーツはできませんという状態ですが、この話ではないですね。

先ほど、高齢者の話が出ていましたが、僕は患者をいっぱい診ているのですが、多分、動くのもスポーツかと思うのです。高齢者の方はスポーツをしなさいと言っても、なかなかできないと思うので、歩きなさい、自分のできることをしなさいと言うのですけれども、多分、一番困るのは、冬期間なのです。冬期間がどうしようもなく、歩けと言っても、転んだら困るし、むしろ1回でも転ぶと誰も動かなくなってしまいます。ですから、冬期間に何とか動けるようなスポーツ局側のそういう取組みですね。今でしたら、デイサービスに行ってやっている人も結構いるのだけれども、そういうところに行けない人もいるので、そこは困るなといつも考えています。

○石澤会長

ご専門の立場から貴重なご意見をありがとうございます。

さあ、ほかはいかがでしょうか。

○西村委員

あとは、きょうみたいな炎天下の日にスポーツをしなさいと言われても、なかなか厳しいものがあります。札幌もこれからはだんだん厳しくなっていくのではないかと思うのですけれども、そこはしっかり考えなければいけないと思います。

今回、熱中症で結構運び込まれていると思うのですけれども、東京だと気象庁あたりから禁止命令が出るのではなかったでしたか。

札幌でのそういう取り組みを余り聞いていないのですが、そういうこともちゃんとしてあげないと、かえって体を壊すことになるのではないかと思います。そこは、札幌といえども、ちゃんと考えていかなければいけないというのが一つあると思います。

あと、関係ないかもしれないですけども、自転車、サイクリングもスポーツだというのですけれども、札幌で自転車に乗ると危ないですよ。それはここの話ではないのでしょうか。

○事務局（砂村企画担当課長）

おっしゃっていただいて結構です。

○西村委員

この前も北1条でひかれて亡くなった人がいたと思いますが、何か考えないとだめではないかと常々思っています。

○石澤会長

ありがとうございます。

方針ということで、細かいことを定めるところが一つありますけれども、方針のもとになる目標ということで、かなり大きな内容が目標として一つ想定できるというところもあります。今、委員の方々から専門分野の内容でいただいています。

ですから、そこを踏まえて、集約して大きな目標の形に近づけていくことが我々に与えられたミッションでもあるわけです。この際、大きい小さいは余り関係なく、とりあえず意見をどんどんいただきたいと思います。

まだご発言していない方からもお伺いしたいと思います。

○川口委員

私は中央区におりますが、スポーツ推進委員会と地域振興課を含めて、それぞれで事業をやっているのですけれども、簡単にスポーツのきっかけになることと先ほどあったように、うちの場合は、藻岩山があるのでそこを中心として、11月には子どもたちとインドア雪合戦というものを開催しています。

インドア雪合戦というのは、もともと施設でつくっている小豆の玉みたいな専用の玉を使用して、高学年、中学年で、合計で15チームぐらい、1チーム7人ぐらいで交代制で行います。十二、三年やっていますが、児童館に通っている子たちは、強いことは強いのですけれども、児童館に通っている子たちも含めて出るために何をするかというと、練習日を2日設けているのですが、日ごろ、子どもたちが学校が終わって児童館に通ったときに、その目標に合わせて常に練習しているのです。ですから、十何年やっていると、その子たちが、お姉ちゃん、兄弟、その次に高学年だった子が下の子という感じに、常に動きがわかり、こんなに大きくなったのかということがわかるのです。それを、1回だけではなくて、継続して練習していくのです。児童館に通っている子は、児童館の先生たちもこれに向けて継続してやっているという部分もあるので、インドア雪合戦をあちこちでやる

機会はなかなかないと思うけれども、その楽しさというのは、私たちもそうだったのですが、見るのとやるのとでは大違いです。実際にやっているときは、我が子が出るからと親御さんが真剣に見ているということもあるので、私たちも真剣に審判をやるのですけれども、それが一つのきっかけになって、親御さんたちも、スポーツの楽しさ、子どもがやっている楽しさを覚えてくれればなと思っています。

また、藻岩山でやったときも、今回、200名を募集していまして、小さい子も多いのですが、大体186名が申し込んできたのですけれども、百四十何名でしたか。それでも親御さん中心で子どもたちが来ていましたので、それもきっかけに、藻岩山ですね。あとは、そのままロープウェイで帰る子もいれば、そのままおりて帰る子もいます。それも一つのきっかけになればなと思って継続しているのですけれども、続けて来てくれる顔を見られれば、うれしいなというふうに思ってやっています。

そのためには、私たちが審判をするに当たっても、グレードアップしていかなければいけないと思っています。私たち審判する人間も、新人が入ってくるし、やめる人間もいるので、意識して勉強していかななくてはいけないかなということで活動しています。

○石澤会長

継続性というか、地域の大事さになってくると思います。

○川口委員

そうです。

○石澤会長

佐藤委員はいかがでしょうか。

○佐藤委員

体育振興会では、小学校、中学校の体育館を借りて、地域の各サークルがその体育館で練習してきて、施設の大きな体育館で地域の小学校の体育館で練習してきた成果を出すという活動に協力するため、私たちは、小学校や中学校の開放に協力しているところです。学校を利用するに当たって、先生方の協力も必要だし、地元の方のお手伝いも必要ということで、大人から子どもまで全てのみんなが地域の小学校で練習できるというところであり、空手であったり、サッカーであったり、野球であったり、いろいろなスポーツが学校で練習できると思うのです。部活には入っていないけれども、地域の活動をしているサークルに足を向けている子どもたちが最近多くなってきたので、すごく喜んでいきます。

ですから、それをつなげていって、子どもたちが中央体育館なり西区の体育館なりのいろいろな大会に参加できる形にどんどんなっていけばなと思っています。

○石澤会長

ありがとうございました。

長澤委員、どうぞ。

○長澤委員

子ども体育協会としては、五十幾つの競技団体をまとめているのですが、今、どの競技も、子どもたちが少なくなってきた、次のプレーヤーを育てるのが大変です。

みんなで話すのは、コンサも、日ハムも、レバンガもそうですけれども、どの競技においても、誰かスターが出てこないかということです。例えば、テニスだったら、錦織君が出てきて、今、活躍しているけれども、スター選手をぜひ育てたいと思っています。そこには、ある程度の投資も必要だろうし、選手を見きわめることも必要です。それで大きく影響された子どもたちがさらに、あるいは、子どもたちだけに限らず一般の人たちがスポーツを始めるきっかけに十分になっていきます。

スター選手ではなくても、テニスの場合は、漫画でも一気に生徒たちがふえるとか、碁でもそうでしたね。「ヒカルの碁」の影響で碁をする子どもたちが一気にふえたということもあります。まさしく、今、コンサの人もいますけれども、「する」「みる」「ささえる」ではなく、日ハムの応援団も含めて、まさにこの三つが一緒になってやっています。応援する楽しみ、プレーを見る楽しみ、自分たちも日ハムだとかコンサのそれぞれの競技団体を一緒になって支えているぞという3者が一緒になってやるから、どんどん盛り上がっていくわけです。

子どもたちについては少ないから、どの競技でもいいからやるきっかけを提供してあげて、その中から自分の好きな競技を選んでいけるシステムをできればつくってあげればいいと思いますし、我々の年代になると、これから新たにラグビーを始めようとか何かを始めようとはならないですよ。やはり健康のためのスポーツがどうしてもメインになってきますし、それでもアスリートを望む人は、ねりんピックとか、日本スポーツマスターズとか、いろいろなステージがあるわけですから、そういう面では、楽しく人との交流がたっくさんできるような年代に合わせたステージをつくっていくということも一つの方法だろうと思います。

○石澤会長

ありがとうございます。

札幌の強みというのは、今、長澤委員がおっしゃいましたけれども、プロスポーツチームがたっくさんあるということです。特に、コンサも今年は好調ですからね。

○岩崎委員

今のところは。

#### ○石澤会長

いえいえ、ぜひ継続していただいて。

日ハムも、今は2位で、かなり頑張っておりますので、そういったプロスポーツの影響力が大きいと思います。

あとは、来年、ラグビーワールドカップが参りますし、つい先日、東京オリ・パラの日程が発表されまして、札幌市でも、サッカーが5日間開かれるということで、いよいよ国際的なメガイベントも近づいてきております。そういったことも含めまして、その究極が2026年か2030年かまだわからないですが、2回目の冬季オリ・パラを招致したいといった流れもあって、今、グローバル的な視点も非常に脚光を浴びているところではあります。

その辺は、皆様方のご意見はどうでしょうか。

国際的なメガイベントが実際に決まって、最大のものの招致を目指しているということで、これからの切り口としては大きなインパクトになると考えておりますが、いかがでしょうか。

#### ○岩崎委員

つい先日、サッカーのワールドカップが終わったばかりで、日本代表もよく頑張っており、そこまでいってくれたなと思っております。札幌の人たちも、ふだんコンソードレを見に来てほしいなと思う人たちが、サッカーのワールドカップ開催期間中にあやまって盛り上がるというのは、すごいことだと思うのです。

例えば、僕はサッカーをずっとやってきたわけですが、こうしてお話ししている中で、サッカーを始めたきっかけを考えていたのですが、まず、一番最初はテレビでサッカーを見たのです。僕は、今、46歳ですが、Jリーグもやっていないし、サッカーがニュースでも流れず、プロ野球ニュースで、きょうのホームランみたいなものばかりだったので、サッカーを見たときに、すごい格好いいな、おもしろいなと感じて、それがきっかけでサッカーを始めました。やはり、ワールドカップとか国際的な規模の大きな大会を誘致することによって、ふだんサッカーを見たことがない人たちがサッカーを見るときか、ラグビーワールドカップが来たときに初めてラグビーを観戦するときか、そういったきっかけづくりには絶対になると思います。

また、こういった競技力のあるスポーツも大事ですが、スポーツが得意ではない子もいると思うのです。では、そういう子たちばかりを置いておくわけではなくて、苦手な子は参加するのに勇気が要るはずなのです。そういったときに、友達同士でやってみようとか声かけをして、誘うことも一つのキーワードとして大事なのかなと思います。多分、ワールドカップを見ていて、サッカーをやりたいと思っても、勇気がなくてなかなか始められない子もいると思うのです。そういう子たちに、一緒にやってみようという誘い

合いもキーワードの中の一つに入れてもいいと思いました。

○石澤会長

多種多様なかわりが出てくるところもあると思いますので、参加に二の足を踏んでいるような人たちにどうコミットしていくかも非常に重要なポイントなのかなという意見をいただきました。

ほかにいかがでしょうか。

意見のペーパーもふえてまいりましたので、大体こんな感じの意見の集約でよろしいですか。

事務局、これでよろしいですか。

○事務局（砂村企画担当課長）

1点だけです。

今ごらんいただいたオレンジの部分の四つですが、特に力を入れたいところということで、スポーツ参画人口の拡大、スポーツを通じた共生社会の実現、それから、冬季オリ・パラ招致、あるいは、今のイベントというようなお話はあったのですが、スポーツを通じた経済・地域の活性化について、特に経済の部分で何か知見をお持ちであればご意見を頂戴できればと思います。

また、長澤委員に確認ですが、施設についてはどういうキーワードを入れていったらよろしいでしょうか。

○長澤委員

余りそういう意識ではないですが、浅香委員ではないですけれども、例えば、我々が普通どおりテニスをするテニスコートがあるのですけれども、札幌のメッカである中島公園庭球場でテニスをしようと思ったら、ふだん車椅子の人たちがやりたいと思っても、車椅子をぐるぐる回したりするとコートを傷めますので、利用できません。それと同じように、学校でも車椅子でバスケットができますと言っても、自分の力で学校の体育館まで行けるのかという問題もあるでしょうし、誰かが常に付き添っていないとできないというものだと、さあ、やろうかとはなかなかないと思います。

それは想像するだけの話で、余り詳しくはわからないのですが、その辺のきめ細やかと言ったらおかしいですけれども、身近にすぐできるような配慮もあっていいのではないかなと思って言っただけです。

○浅香委員

今、内閣府が、ユニバーサルデザイン2020ということで、それこそ二つ目の共生社会の実現ということで、障がいがある者、ない者、全ての国民がスポーツをしましょう、

このほうが健康づくりにいいですよということで動いています。2020年といっても、もう1年半しかありませんので、障がい者団体としては、その後をどうしましょうかと。10年計画ぐらいで、それこそ陰では2030年ではないかとみんなで言われているものですから、札幌のオリ・パラまでつなげていくように頑張りましょうという話をしております。

ユニバーサルデザイン2020というのは、心のバリアフリーで、ソフト面が大多数です。それこそ、おもてなしなどですね。それを含めて、ハード的なバリアフリーですね。人間が動かないと、物もつくれないし、動かないという話になるものですから、そういう点を大事にしていきたいと思いますという話でした。

また、先ほど課長が言われたように、スポーツを通じた経済・地域の活性化ということですが、それこそ夢のある札幌ドームを一般市民に開放して、高校野球の予選は札幌ドームでやるという方向性ぐらいは持ってもいいのかなと思います。

実は、広島市にも市民球場がありますけれども、広島市民からすると、市民球場なんて名前はどうそだと言っているのです。アマチュア野球には絶対に貸してくれないとみんな言っています。私は、札幌市はそんなことないよと胸を張って言いたいものですから、プロスポーツもアマチュアスポーツもみんな仲よく、それこそ共生して使ってやっていますよという姿を目指してもいいのかなと感じていました。

#### ○石澤会長

ありがとうございます。

スポーツを語る上で、今おっしゃっていましたが、地域とか経済の活性化というのも一つ大きなポイントになってくるという切り口もあると思います。それが直結するのが、メガイベントのワールドカップとかオリンピックという形になると思うのですけれども、その辺はいかがですか。どういったところでスポーツが経済に影響を及ぼすのかというあたりでご意見をいただきたいと思います。

#### ○長澤委員

よく言われるのは、ラグビーでも何でもそうですが、北海道合宿ですね。これは、まさに地域の活性化に直結していきますね。

#### ○石澤会長

小野寺委員、お願いします。

#### ○小野寺委員

私は、教頭時代に全国の教頭会の役員をやっていて、仲間と一緒に出たのですが、ランニングが好きな仲間は、例えば、行った先にお城があったら、お城の周りをぐるっと走る

のを趣味にしています。皇居のマラソンは結構有名ですね。ですから、札幌でも、例えば、ドームの周りにそういうコースをきちっとつくってみるとか、市民でも、旅行客でも、札幌に来てこのコースを回ってみたらお得だよみたいなものがあると、ビジネスマンでもランニングが好きな方がいたら走るかもしれませんし、外国人も走るかもしれないなと思っていました。私は、一緒に行った友達が毎朝走っているのをあきれながら見ていたのですが、そういうスポーツもあるのだと思っていました。感想です。

○石澤会長

ありがとうございます。

ですから、今、小野寺委員がおっしゃったことは、浅香委員がおっしゃったのと違うかもしれませんが、スポーツ元気都市さっぽろを体現する上で、プロスポーツだけではなくて、そういった地域の特性を生かしたということも一つのポイントになりますね。

堀田委員、お願いします。

○堀田委員

平昌オリンピックで道産子選手が活躍して、75名ぐらいが表彰されて、全国ニュースで流れるほど知名度が上がりました。そういうものを活用して、例えば、有名な選手のうちのどなたかが直接指導に当たるとか、やり方のテクニックを学ぶ機会を与えてくれるというものがあると、観光をされているグループでも、海外の方でも、かなりの人が集まって、地域・経済の活性化につながるのかなと思いました。

○石澤会長

ありがとうございました。

きょう、阿部委員がいらっしゃれば、そんなお話も聞けたと思いますが、確かに、ウィンタースポーツだけではありませんけれども、ほかのバスケットもサッカーも野球もプロがおりますので、そういった方の有効活用も一つ大事なところかと思えます。

時間が大分押し迫ってきましたが、ほかにはいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○石澤会長

今、幾つかのキーワードが出ておりますので、ほかにも入れていただきたいキーワードがあれば入れますけれども、休憩を挟みながら、キーワードの固まりをつくっていきまして、そこで浮かび上がってくる重要なキーワードをご提示させていただいて、それをたたき台として、これから具体的な流れを考えていこうと思います。

いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石澤会長



それでは、ここで10分間の休憩を挟みまして、その間、事務局の方と協力して、これから見えてくるものを抽出していきたいと思います。

[ 休 憩 ]

○石澤会長

皆さん、おそろいですので、再開します。

それでは、いろいろな意見が出てきましたので、それをホワイトボードにまとめてみました。いろいろな人のご意見を伺っておりますので、必ずしも合致するとは限らないですが、一応、三つの固まりに集約されるのかなと考えています。

まず、左のほうから、高齢者とか、「する」「みる」「ささえる」とか、市民という形のところがあるのですけれども、例えば、市民とか個人の要因がいろいろ入ってきているということになります。子どももあり、高齢の方もあり、障がいをお持ちの方も入っているということで、その中で一つのキーワードとして、個人とか市民という形に集約されるのではないかと思います。大きいところから見たとお考えいただきたいと思うのですが、包含するものとして大きい視点から見るという形になってくると、市民とか個人といった流れに落ちつくと思います。

また、真ん中のところですが、さっぽろとか、冬季間のスポーツとか、地域という言葉が出てくるのですけれども、まさに地域とか札幌としての魅力とか有効活用の方法、あるいは、札幌だからできること、札幌だから考えなければいけないこと、あるいは、地域の現状を考えると、2番目の固まりとして、地域とか社会とか札幌という一つのまとまりができるということが言えると思います。

最後に、右端になるのですが、招致とか、5年、10年を見据えた、あるいは、国際的スポーツイベント、部活の生徒数の減少もここに入ってくると思うのですが、将来的な課題やビジョン、国際的といいますか、世界ですね。グローバルという言い方をよくされるのですけれども、そういった固まりを右端に集約してみました。

そうなると、左側は個人とか市民といった一つのキーワードがつかれると思います。真ん中のところは、社会、もうちょっと限定すれば、我々は市民になるわけですので、札幌という固有名詞を入れるというのも一つかと思います。右に関しましては、これからの明るいことも含めてですけれども、少子化、高齢化ということも踏まえて、人口減社会を踏まえて、未来を見据えていかなければいけません。あるいは、国際化といいますか、世界とかグローバルといった感じの視点のところをこれから改定案に盛り込む一つのヒントになると感じます。

この辺につきまして、皆さんからご意見をいただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

あくまでも、いただいた内容をもとにして、大きいところから見た大きなキーワードを

つくらなければいけないというのが一つの役割になりますので、そういった感じでご提案をさせていただきたいと思うのですけれども、何かご意見をいただければと思います。

岩崎委員、何かありましたら、お願いします。

○岩崎委員

いいと思います。

○石澤会長

これからの社会問題や、現状の置かれている課題、そこにある札幌の立ち位置プラス、札幌を構成する我々市民や個人のあり方という感じのところで、大体キーワードを集約すると今挙げた形になると思います。それを踏まえて、細かいところの方針をこれからまた練っていく必要があると思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石澤会長

今、話をした内容でよろしければ、事務局のほうで精査してまとめていただいて、今いただいた各委員の貴重なご意見を整理した上で、次回の審議会までに施策体系の骨子の作成をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石澤会長

ありがとうございます。

とりあえず、これを踏まえて次回までに骨子をつくっていただくということで、次回以降のスケジュールにつきまして、事務局からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

○事務局（砂村企画担当課長）

ありがとうございます。

最後に、資料3の右下にございます今後のスケジュール（案）についてご説明させていただきます。

本日ご審議いただきました内容やご意見等を踏まえまして、今後、改定案の作成作業に入ってまいりたいと考えております。

第2回の審議会は、9月ごろに開催させていただきたいと考えております。

素案という形で委員の皆様にご提示、審議をしていただいた後、10月ごろにいま一度ご審議を頂戴いたしまして、10月末ごろまでには改定案を一旦成案にしたいと考えております。その後、庁内での調整や教育委員会会議などの審議を踏まえました後、市民の皆様にご公表してご意見を頂戴する手続のパブリックコメントを1月ぐらいに実施したいと考えております。パブリックコメントの終了の後、何度もお手数ですが、改めて審議会にお

集まりいただきまして、皆様にご確認いただいた上で、教育委員会会議にこれを報告し、今年度中を目標に改定計画を策定したいと考えているところでございます。

以上、今後のスケジュール（案）についての説明を終わります。

○石澤会長

ありがとうございました。

ただいま、事務局から示されました今後のスケジュール（案）につきまして、ご意見、ご質問はありますか。

（「なし」と発言する者あり）

○石澤会長

特にご意見がないようでしたら、資料3の右下のスケジュールで以降の審議を行ってまいりたいと思いますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題につきましては、以上で終了したいと思います。

ありがとうございました。

4. 閉会

以 上